

前橋赤十字病院だより

HAKUAI +

[はくあい プラス]

Japanese Red Cross Maebashi Hospital

特集 コロナと戦う情報システム

〈健康学〉咀嚼について

当院は心臓血管麻酔専門医認定施設です

朝倉・後閑水田遺跡と病院周辺の歴史

TAKE FREE

vol.

63

2020
autumn



みんなにとってやさしい、頼りになる病院

Japanese
Red Cross Society

前橋赤十字病院

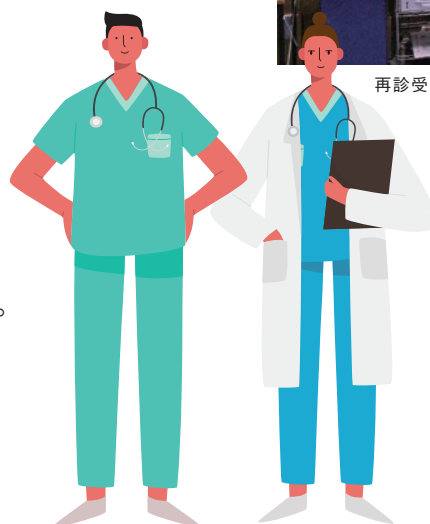
コロナと戦う情報システム

Hospital Information System

現在、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大しておりますが、
 当院では患者さんの安全はもとより、職員の職場環境の安全を守りつつ、
 継続して高度な地域医療を提供するために
 様々な取り組みを行ってまいりました。
 その一つに当院情報システム課を中心とした
 IT (information technology: 情報技術) を活用した対策が挙げられます。
 今回、リニューアル創刊号の特集として、
 新型コロナウイルス感染症対策における「病院情報システム」の
 活動にスポットをあて、ご紹介したいと思います。



再診受付機



情報システム課とは

情報システム課と聞くとどのような仕事をしているのか想像しにくく、何だか難しいことをしていると考えられる方も少なくないと思います。簡単に説明しますと、患者さんに安全な医療を効率よく提供するためのシステム(病院情報システム)を管理している部署です。今では大きい病院ではほとんど採用されている電子カルテをはじめ、現在、病院内全体で、50以上の病院情報システムが稼働しております。(図1)

例えば、病院に来院し、再診受付機で受付をすると案内票が印刷され、患者さんがどこのエリアに向かえばよいのかを案内する仕組みも病院情報システムの一つです。
 この再診受付機ですが、患者さんを案内すると同時に、患者さんが到着したことを病院スタッフに伝達しており、その情報をもとに医師や看護師など医療スタッフが動けるようになっています。
 また、採血や放射線などの検査の際にも事前にシステム上で医師から必要な検査指示を確認でき、その情報を共有

できるため、迅速にかつ間違いなく検査が行えます。
 当院では職員4名、業務委託1名の計5名で構成された「情報システム課」にてこれらの情報伝達が途絶えないようにすべての情報システムを管理しています。
 そのほか、医師や看護師などが使用している電子カルテ(パソコン)や薬の処方箋を発行するプリンタなどの保守点検作業も行っており、安定した医療が提供できる環境を整えています。

新型コロナウイルス感染症に対するITの活用

当院では新病院移転に伴いIT設備を一新し、他病院ではPHSが主流の中、いち早くスマートフォンによる内線通話環境を実現しました。
 皆様も昔のガラケーと現在主流となったスマートフォンを比べると便利さが格段に違うと感じていると思いますが、院内でもiPhoneやiPadなど最新の設備があることで、音声通話だけでなく、映像も含めた様々なコミュニケーションをとることが可能となっています。

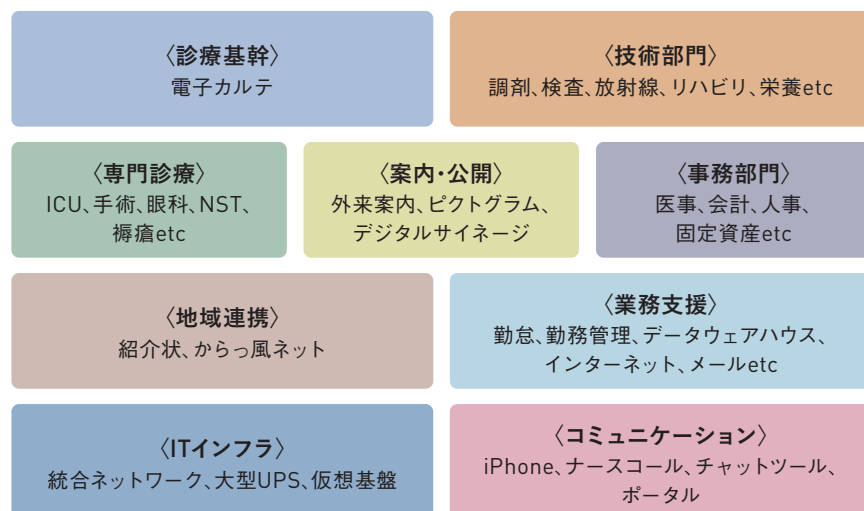


図1: 前橋赤十字病院 システム一覧



患者さんには、直接お会いしませんが、病院のシステムを支えることで、病院運営を日々円滑に行えるよう、頑張っています。



この設備を応用して、職員と患者さんがテレビ電話でコミュニケーションを取れる環境を準備したり、緊急事態宣言で東京都から来県できなくなった医師と当院の医師、来院した患者さんをWEB会議システムで繋げて、診療を行える環境を整えるなどの取り組みを行いました。

病棟でのIT活用

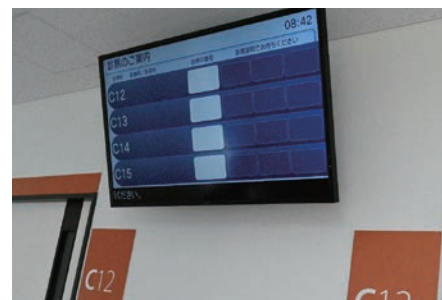
新型コロナウイルス感染症の感染様式が主に飛沫感染ということで、直接患者さんの診察をする際は防護服に着替えて病室へ行く必要があるというのは皆様もご存知のことかと思います。新型コロナウイルス感染症の診療では医療の基本である「対面診療」をすること自体に感染リスクがあり、これがスタッフへの大きなストレスになります。

更には対面する毎の防護服の着脱により時間も浪費されてしまうため、入院診療対策は最初に解決すべき課題でした。そこで、スタッフステーションと病室それぞれにiPadもしくはテレビ電話専用の機器を設置し、離れた場所でも患者さんの状態がわかるだけでなく、音声と映像でコミュニケーションがとれる環境を準備しました。必要な時にスタッフと患者さんとコミュニケーションが取れるだけでなく、表情やしぐさ、咳き込む音などを常に把握し、状態の変化にいち早く気づくことができるようにという現場の声を受け、環境整備に取り組みました。

現在も新型コロナウイルス陽性の患者さんが入院される際にはこの環境を利用しています。

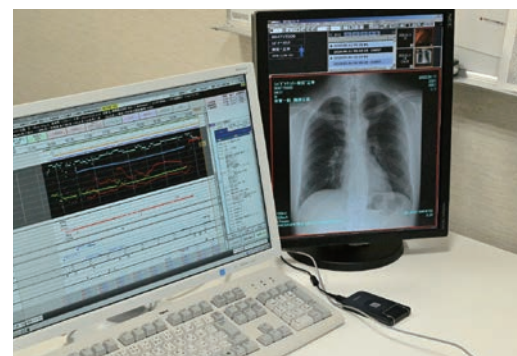
安心を提供するシステムへ

これまでご紹介した通り、当院では患者さんに安全で質の高い医療を提供するためにスタッフ一丸となって取り組ん



診察案内板

でおります。また、職員の安全、利便性など病院を経営する上で必要なことに関してもITを活用しながらより良い病院情報システムを目指して取り組んでいるところです。新型コロナウイルスで毎日不安を感じていらっしゃると思いますが、今までもこれからも地域医療を守るために感染予防には一層努めてまいります。体調が良好に越したことはありませんが、もし体調を崩されて受診されることになっても、ご安心して来院頂ければ幸いです。



電子カルテ端末

健康学

Health science

第1回

そしゃく 咀嚼について

咀嚼(そしゃく)とは、口腔内に運ばれてきた食べものを飲み込めるように細かく噛み砕くことをいいます。食べものを体内に取り込むための最初の消化活動といえます。

咀嚼することは食べものの消化・吸収を助けるだけでなく、様々な効果をもたらします。

また、何かと多忙な現代人は、食事にかかる時間も少なくなり、噛む回数が少ないやわらかいものを好んで食べるようになり、一回の食事あたりの咀嚼回数はどんどん減ってきています。弥生時代から現代までの1食あたりの推定咀嚼回数と、それに伴う食事時間を試算した研究結果では、現代食が平均咀嚼回数620回、食事時間わずか11分であるのに対し、弥生時代はおよそ4千回噛んで、1時間を要したと報告されています。それだけ時代と共に食べ物は軟らかくなり、人は噛まなくなっています。

早く食べることのできる料理にはやわらかい料理が多く、ファストフードなどに代表されるように、重量あたりのエネルギーの差は他の料理と比較すると一目瞭然です。例として、一般的な焼き魚定食では1食あたり約600kcal、水分などを含めた全体重量は約500gであるのに対し、ジャムなどが塗られている市販の菓子パン(コッペパン)は1個で500kcal、160gと、重量には2倍以上の差があるにも関わらず、同等のエネルギーを摂取できてしまいます。

重量が少なければ咀嚼する回数も少なくなります。また、少量でエネルギーを確保できる食品は、脂質を多く含む傾向にあります。ファストフードなどで使用されている油は質が悪く、体内でうまく代謝されず生活習慣病の要因となってしまうことも少なくありません。

食事時間が早いと思ったら、一度食べている内容がやわらかすぎないかチェックしてみると、自然とバランスのとれた食事を構成できるかもしれません。噛むことを意識して、主食、主菜、副菜の揃った食事を心がけるようにしましょう。



600kcal、500g



500kcal、160g



心臓血管麻酔専門医認定施設

当院は2019年10月より、心臓血管麻酔専門医認定施設に認定されています。心臓血管麻酔専門医認定施設は心臓血管麻酔専門医（麻酔科領域）における知識・技能に加え、心臓血管麻酔に必要な精緻な全身管理、心エコーなどのより高度な知識・技能をもち、心臓血管手術のみならず心疾患を有する患者さんの非心臓手術においても安全かつ最適な麻酔が提供できる専門医の在職や心臓血管外科手術件数などの条件を満たす心臓血管麻酔の教育・研修の場となる施設とされています。群馬県内では、他に県立心臓血管センター、小児医療センター、群馬大学医学部附属病院が認定されていますが、専門病院・大学病院以外の市中病院での認定施設は当院のみです。

当院では、総合病院の強みを生かして、透析や糖尿病、脳神経疾患等の複数の病気を持つ患者さんでも安全に最適な心臓血管手術・麻酔を受けられるように、術前カンファランスによるリスクの共有、心臓血管麻酔専門医を含めた複数人での麻酔など嚴重な周術期管理を実施しています。また、心疾患を有する患者さんの非心臓手術においても、各科医師と麻酔の危険性や周術期管理についてディスカッションを行い、安全に最適な麻酔・手術が実施できるように心がけております。



ご存じですか『高額療養費制度』

高額な医療費をお支払いいただいた際は、高額療養費制度で払い戻しが可能です。高額療養費制度とは、1ヵ月にかかった医療費の自己負担額が高額になった場合、ご自分の予め定められた自己負担限度額を超えた分が、あとで払い戻される制度です。医療費が高額になることが事前にわかっている場合には、「限度額適用認定証」を提示

されることをお勧めいたします。なお、外来診療にも適応されますので、高額になる外来診療を受けている方、また、高額な診療を連月に渡って受けている方については、自己負担限度額がさらに減額されますので、ご不明な点がございましたら係員までお問い合わせください。

自己負担限度額は、年齢および所得状況等により異なりますのでご注意ください。

所得区分【70歳未満の区分】	自己負担限度額	多数該当※2
①区分ア（標準報酬月額83万円以上の方） （報酬月額81万円以上の方）	252,600円+（総医療費※1-842,000円）×1%	140,100円
②区分イ（標準報酬月額53万円～79万円の方） （報酬月額51万5千円以上～81万円未満の方）	167,400円+（総医療費※1-558,000円）×1%	93,000円
③区分ウ（標準報酬月額28万円～50万円の方） （報酬月額27万円以上～51万5千円未満の方）	252,600円+（総医療費※1-842,000円）×1%	44,400円
④区分エ（標準報酬月額26万円以下の方） （報酬月額27万円未満の方）	57,600円	44,400円
⑤区分オ（低所得者） （被保険者が市区町村民税の非課税者等）	35,400円	24,600円

※1 総医療費とは保険適用される診察費用の総額(10割)です。
 ※2 診療を受けた月以前の1年間に、3ヵ月以上の高額療養費の支給を受けた(限度額適用認定証を使用し、自己負担限度額を負担した場合も含む)場合には、4ヵ月目から「多数該当」となり、自己負担限度額がさらに軽減されます。

前橋と
病院周辺の
気になるコト

病院 よもやま 噺

ばなし



病院建設前の上空からの風景

Topics-1

朝倉・後閑水田遺跡と病院周辺の歴史

病院建設の際、建設地の地中に埋もれている埋蔵文化財の発掘調査を行いました。建物の地下に免震層を作ったり、地中深く岩盤まで杭を打ったりすることで埋蔵文化財を壊してしまう恐れがあるからです。発掘調査の結果、1108年(平安時代末)の浅間山大噴火による噴出物に被覆された水田跡等が確認され、“朝倉・後閑水田遺跡”と命名されました。

さらに調べてみると、病院の近くに古墳があり『群馬の古墳時代はここから始まった!!朝倉・広瀬古墳群』パンフレットを発見しました。興味津々で内容を確認すると、“病院の近くには150基以上の古墳が存在していた”、“古墳時代(4世紀から7世紀)、利根川は病院の東側(現在の広瀬川のところ)を流れていた”などなど、新しい発見にびっくり。

その昔、病院周辺には今と同じように水田が広がり、近くには人々が住み暮らしていたのかと悠久の昔に思いを馳せつつ、天気の良い日に病院周辺を散策してみようと思った瞬間でした。



『群馬の古墳時代はここから始まった!!朝倉・広瀬古墳群』

Topics-2

谷川岳肩の小屋からオジカ沢～万太郎山に続く美しい稜線

谷川岳ロープウェイを使って1319mまで一気に上がり、天神尾根ルートを二時間半登ると写真を撮影した肩の小屋に到着します。谷川岳は群馬県と新潟県の県境にある三国山脈の一山で高山植物の宝庫と言われ人気がある日本百名山の一つです。標高1977mの頂上は全方位に展望があり浅間山や赤城山、苗場山を望むことができ10月初旬よりナナカマドが赤く染まり色とりどりの木々を楽しむ事ができます。





01

新型コロナウイルス感染症に関する 当院の対応

当院は、感染症指定病院として、日々新型コロナウイルス感染症患者さんの入院診療を行っております。一般診療とは分離された区域で行っているため、一般患者さんと院内で接触することはありません。また、院内における感染対策についても専門のスタッフの管理のもと、万全を期しております。

02

ホームページに新型コロナウイルスの 感染により入院となった方へ のご案内ができました！

新型コロナウイルス感染症により当院へ入院することになった患者さんには、入院時の注意点や必要な持ち物などをお電話でお伝えしております。患者さんにとって慣れない入院となりますので、再度確認ができるように専用のページを作りました。

①「入院案内」をクリック ➡

②「医師から行動を制限するように指示された方へ」をクリック



入院中の注意点や必要な物などがイラストとともに紹介されています。英語でも表記していますので、外国の方でも安心してご確認いただけます。

03

3密防止対策

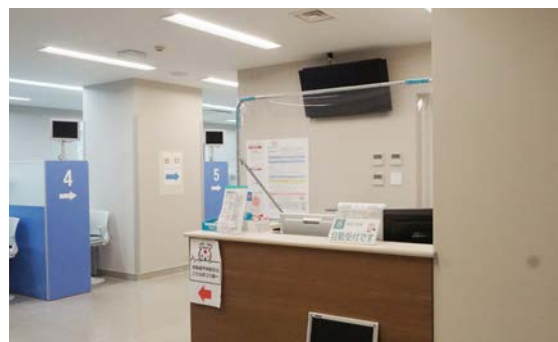
患者さん同士や職員との接触を減らすため、様々な対策を行い院内感染防止に努めております。



お並びになるときは、1.5mの間隔を開けてください。



張り紙が置いてある部分にはご着席なさらないで下さい。



院内の感染防止のため、患者さんと受付職員の間「ビニールシート」を設置し、感染リスクを軽減しています。

十 | 字 | 路

／ 創刊号 ／

／ 第5号 ／

／ 第51号 ／



編集後記

「夏火鉢からの脱却を目指して!…広報誌をリニューアル」

2020年秋、東京オリンピック・パラリンピックの盛り上がりの余韻に日本中が包まれ、流れそのまま舞台は関西に移動し、ワールドマスターズゲームズ2021関西、そして2025年の大阪万博と国際的なイベント目白押しに、ワクワク心が躍っていた頃でしょうか。残念ながら、現実には新型コロナウイルス感染症により、別世界となってしまいました。年末恒例の流行語大賞候補もスポーツから生まれた感動的な言葉ではなく、「三密」「ソーシャルディスタンス」あたりが最有力といったところでしょうか? 今となっては、世界中を旅し、様々な国の人々との国際交流を図ったり、老若男女がスポーツを楽しんだりという何気ないことが、如何に贅沢な時間であったかを思い知らされる今日この頃です。

このような時期ではありますが、平成から令和に、旧病院から新病院へと、私たちの環境も大きく変わってきたことも踏まえ、前橋赤十字病院院外広報誌をリニューアルする運びとなりました。当院の広報誌は、2000年に『博愛』という名称で創刊され、今号で63号目の

発行となりました。『博愛』という言葉は、赤十字精神にも上げられ、私たちにとってはなじみ深いもので、『博(ひろ)く愛すること⇔すべての人を等しく愛すること』という意味になります。当院の理念である『みんなにとってやさしい、頼りになる病院』とも共通するところもあり、この博愛という言葉を大切に、継往開来の気持ちを込めて、新しい広報誌の名称は『HAKUAI+ (はくあい・プラス)』としました。昨今、『病院広報誌は必要か否か?』という議論も聞かれ、まさに月夜に提灯夏火鉢といった評価が一部ではあるようですが、広報誌は地域の皆様と病院を結ぶ重要な架け橋の一つと私たちは考えており、これからも大切にしていきたいと思っております。皆様に、手に取ってよかった! 読んでよかった! と思っただけの内容を企画できるように努力してまいります。末永くお付き合い頂けますことを切に願っております。今後とも『HAKUAI+ (はくあい・プラス)』をよろしくお願い申し上げます。

(広報委員会 柴田正幸)

「理念」と「基本方針」

理念

みんなにとってやさしい、
頼りになる病院

基本方針

1. 自分や家族がかかりたい病院となる
2. 社会に必要とされる病院となる
3. 職員が働きたい病院となる
4. 経営が安定している病院となる

 **日本赤十字社** 前橋赤十字病院
Japanese Red Cross Society

最新の情報につきましてはホームページをご覧ください。

<http://www.maebashi.jrc.or.jp>

〒371-0811 前橋市朝倉389番地1
Tel.027-265-3333 Fax.027-225-5250
e-mail:maeseiki@maebashi.jrc.or.jp

編集:前橋赤十字病院広報委員会
発行責任者:事務部長 関根晃

■診療受付/午前8時30分~午前11時
■診療開始/午前9時
■休 診 日/土曜日・日曜日・祝日
年末年始(12/29~1/3)・創立記念日(3/23)

◎広報・ホームページに関するご意見ご感想がありましたらお知らせください。

